

5 仕事について

問 18 「女性の働き方」について、あなたの①現実と②理想はどれにあてはまりますか。
(それぞれ○は一つ)

※女性の方はご自身について、男性の方はご自身の配偶者・パートナー(女性)についてお答えください。

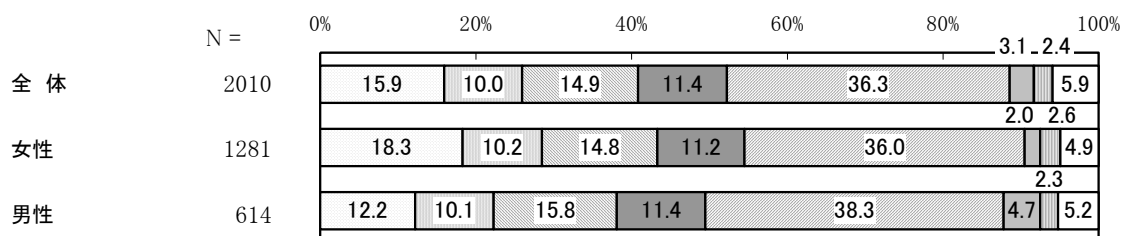
※配偶者・パートナー(女性)がいない男性の方は、「女性の働き方」の理想についてのみ、お答えください。

①現実

「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が 15.9%、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する」の割合が 14.9%となっています。

性別でみると、女性で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が高くなっています。

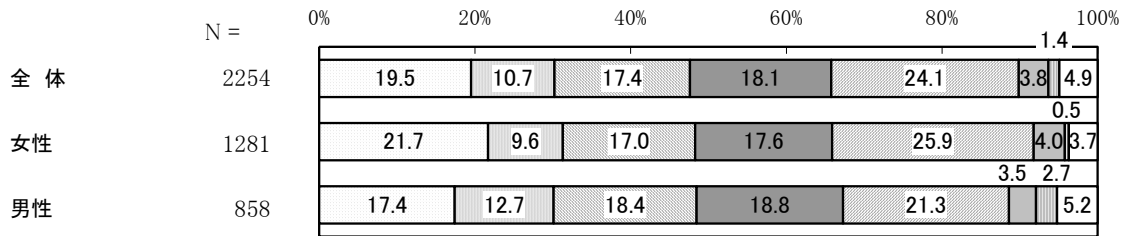
- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 仕事には就かない
- その他
- 無回答



②理想

「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が24.1%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」の割合が19.5%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が18.1%となっています。

- 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける
- 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する
- 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念する
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 仕事には就かない
- その他
- 無回答



問 19 あなたと、あなたの配偶者・パートナーの現在の勤務形態はどれにあてはまりますか。また、あなたの希望の勤務形態はどれにあてはまりますか。※配偶者・パートナーがいない方はご自身の欄だけ記入してください。（それぞれ○は一つ）

(1) 現在の勤務形態

① あなた

「常時雇用の正社員または正職員」の割合が 27.7%と最も高く、次いで「臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）」の割合が 18.7%、「専業主婦・主夫」の割合が 15.2%となっています。

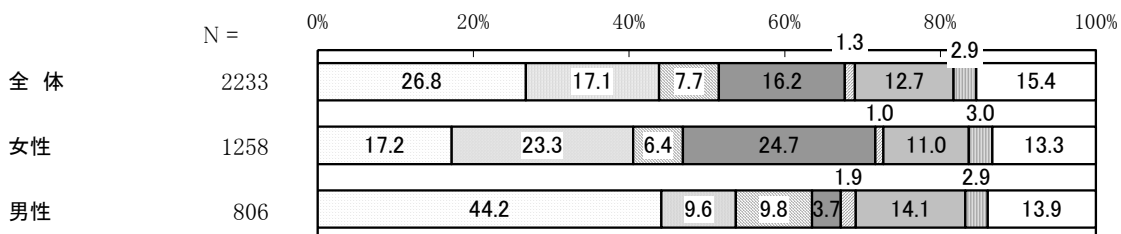
性別でみると、女性で「専業主婦・主夫」の割合が高くなっています。男性で「常時雇用の正社員または正職員」の割合が高くなっています。

- 常時雇用の正社員または正職員
- 臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）
- 自営業主または家族従業者
- 専業主婦・主夫
- 学生
- 無職（専業主婦・主夫を除く）
- その他
- 無回答



【前回調査（平成 22 年）】

① あなた

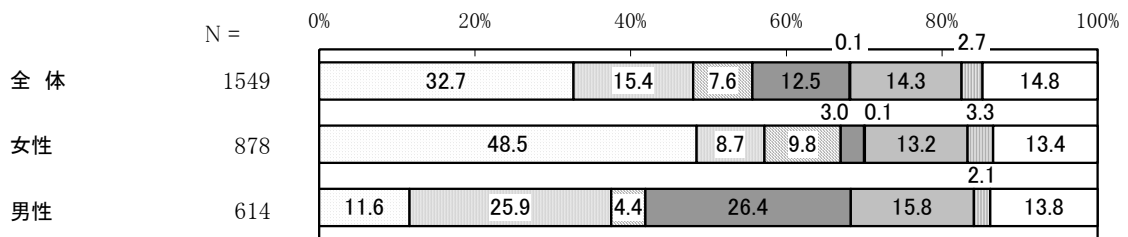


② 配偶者・パートナー

「常時雇用の正社員または正職員」の割合が32.7%と最も高く、次いで「臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）」の割合が15.4%、「無職（専業主婦・主夫を除く）」の割合が14.3%となっています。

性別で見ると、女性で「常時雇用の正社員または正職員」の割合が高くなっています。男性で「専業主婦・主夫」の割合が高くなっています。

- 常時雇用の正社員または正職員
- 臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）
- 自営業主または家族従業者
- 専業主婦・主夫
- 学生
- 無職（専業主婦・主夫を除く）
- その他
- 無回答



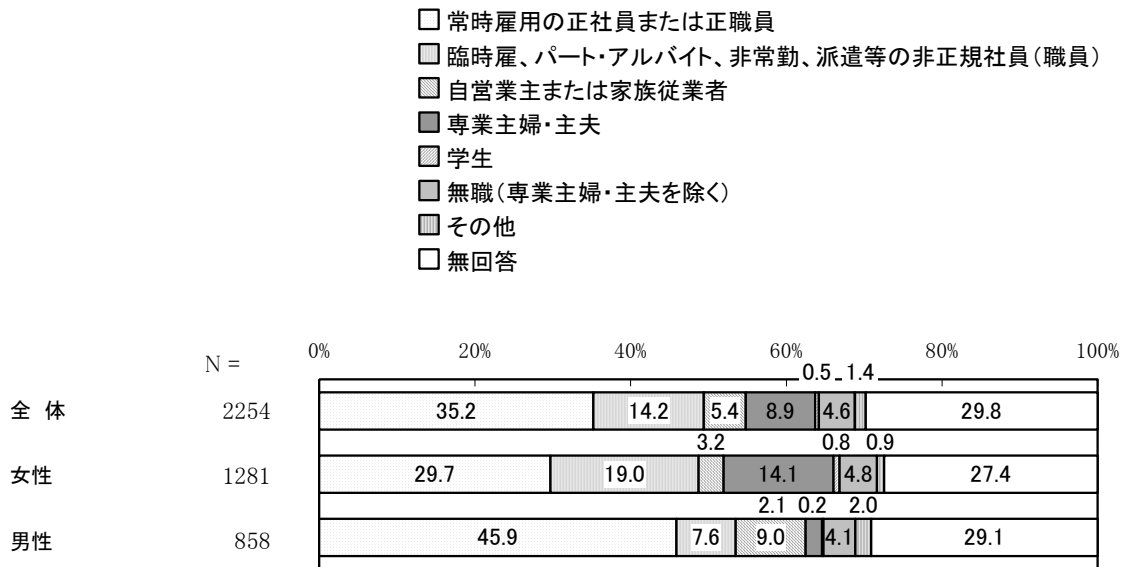
(2) 希望の勤務形態

① あなた

「常時雇用の正社員または正職員」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「臨時雇、パート・アルバイト、非常勤、派遣等の非正規社員（職員）」の割合が 14.2%となっています。

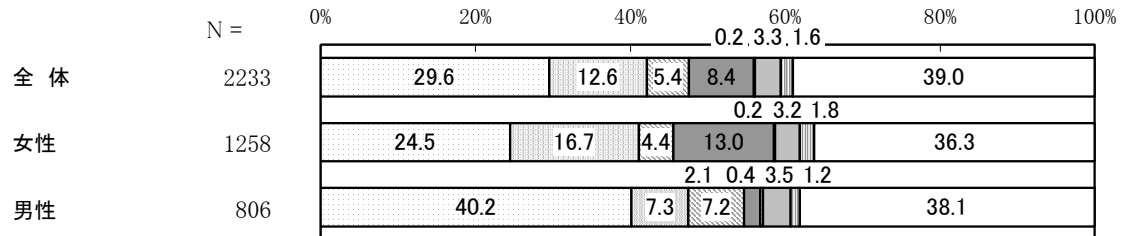
性別で見ると、女性で現在の勤務形態に比べ希望の勤務形態で「常時雇用の正社員または正職員」の割合が 11.0 ポイント高くなっています。男性では、希望の勤務形態で「常時雇用の正社員または正職員」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「常時雇用の正社員または正職員」で 5.6 ポイント高くなっています。男性では「常時雇用の正社員または正職員」で 5.7 ポイント高くなっています。



【前回調査（平成 22 年）】

① あなた

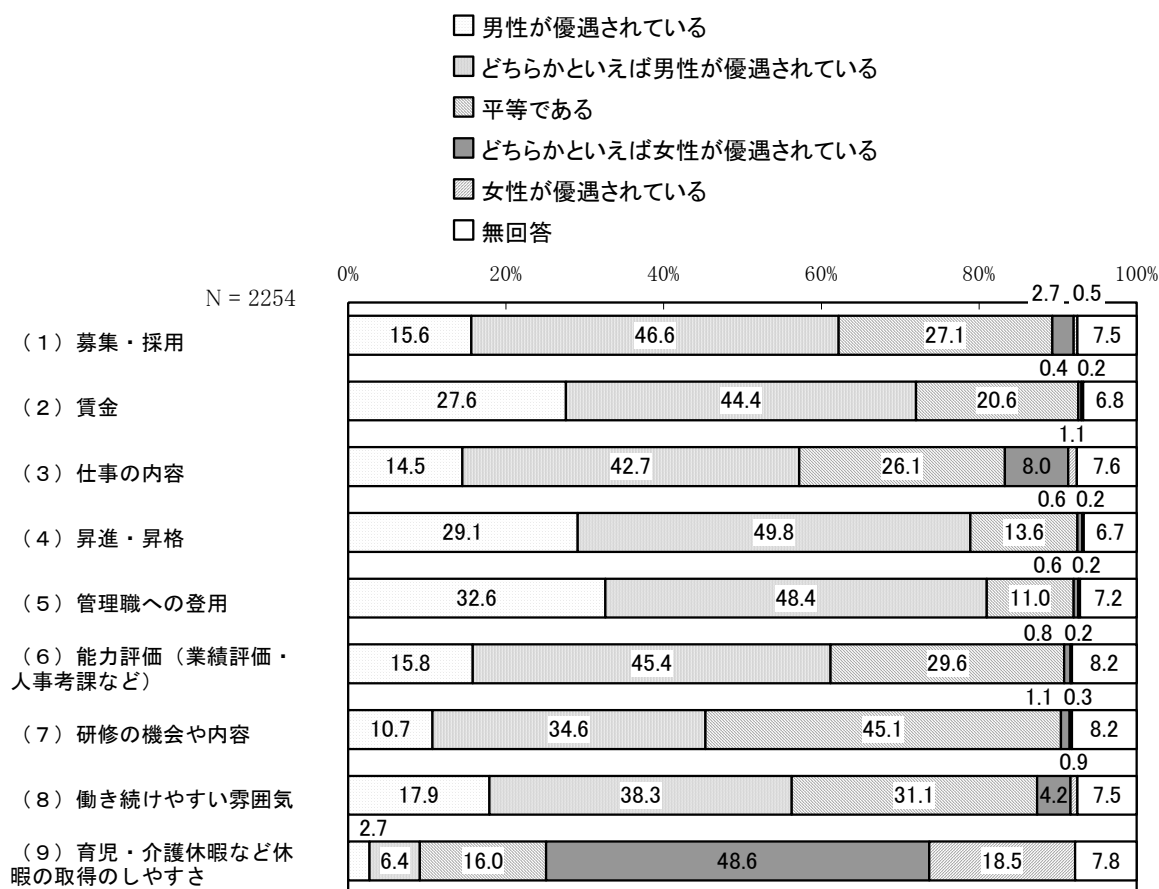


問 20 あなたは、仕事に関する次のことについて、性別による差があると思いますか。
(それぞれ○は一つ)

「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が『(5) 管理職への登用』で81.0%と最も高く、次いで『(4) 昇進・昇格』で78.9%、『(2) 賃金』で72.0%となっています。

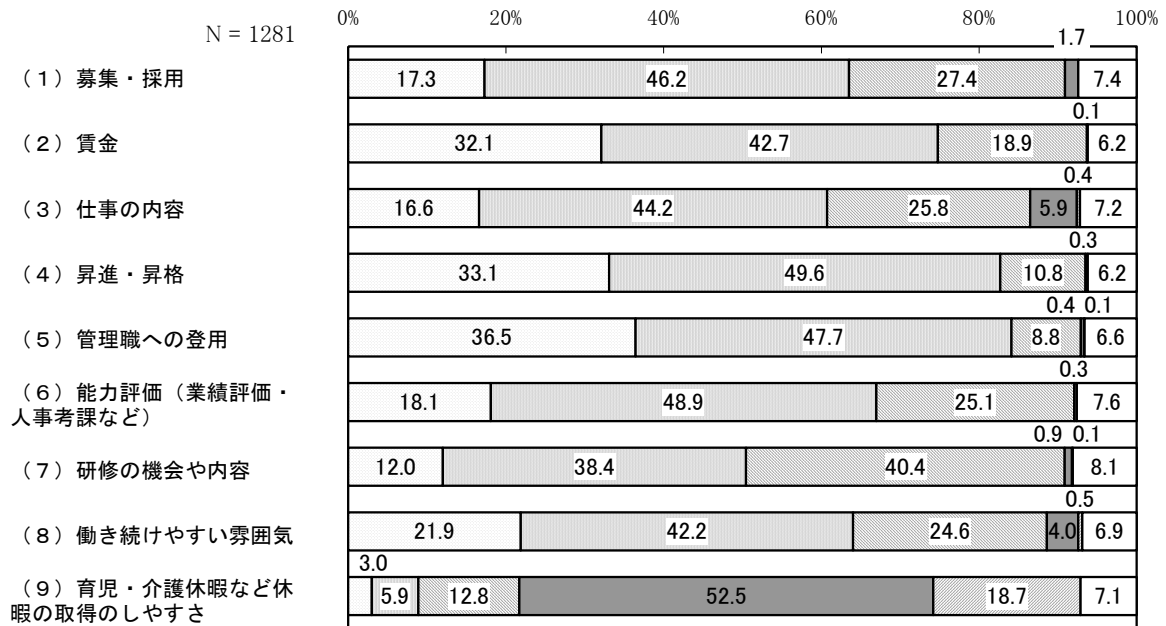
性別でみると、女性で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が『(5) 管理職への登用』で84.2%と最も高く、次いで『(4) 昇進・昇格』で82.7%、『(2) 賃金』で74.8%となっています。男性で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が『(5) 管理職への登用』で78.8%と最も高く、次いで『(4) 昇進・昇格』で75.7%、『(2) 賃金』で69.4%となっています。

前回調査と比べると、女性で“男性が優遇されている”の割合が『(2) 賃金』で5.1ポイント低くなっています。男性で“女性が優遇されている”の割合が『(9) 育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ』で18.0ポイント低くなっています。また、“男性が優遇されている”の割合が『(7) 研修の機会や内容』で6.1ポイント、『(6) 能力評価(業績評価・人事考課など)』で5.5ポイント、『(3) 仕事の内容』で5.2ポイント低くなっています。

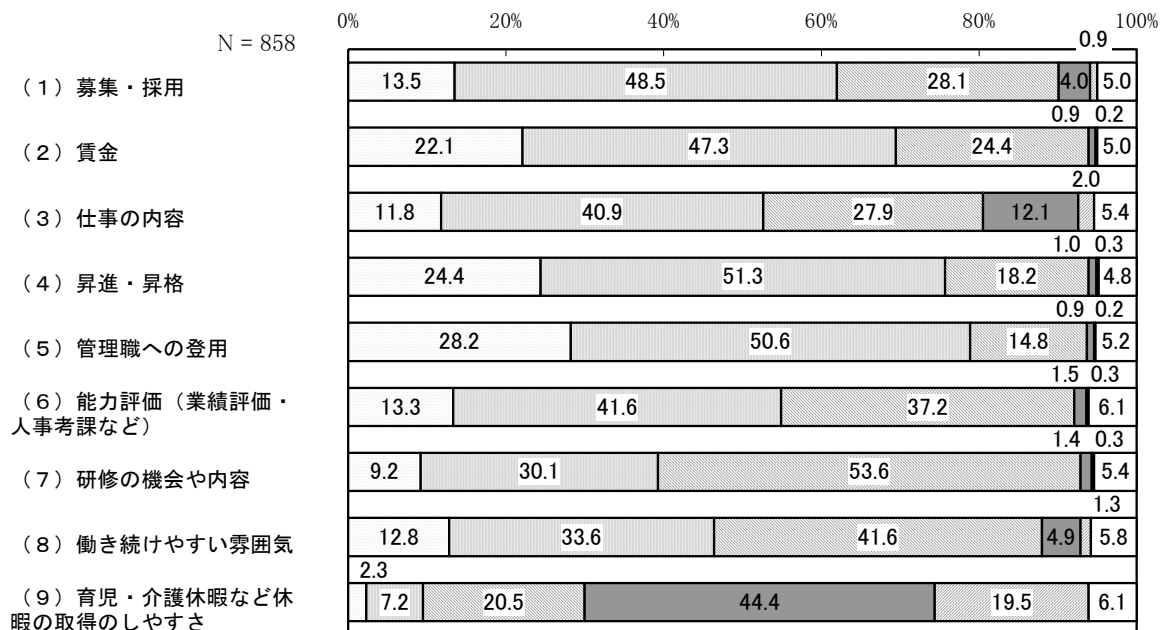


【女性】

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 女性が優遇されている
- 無回答



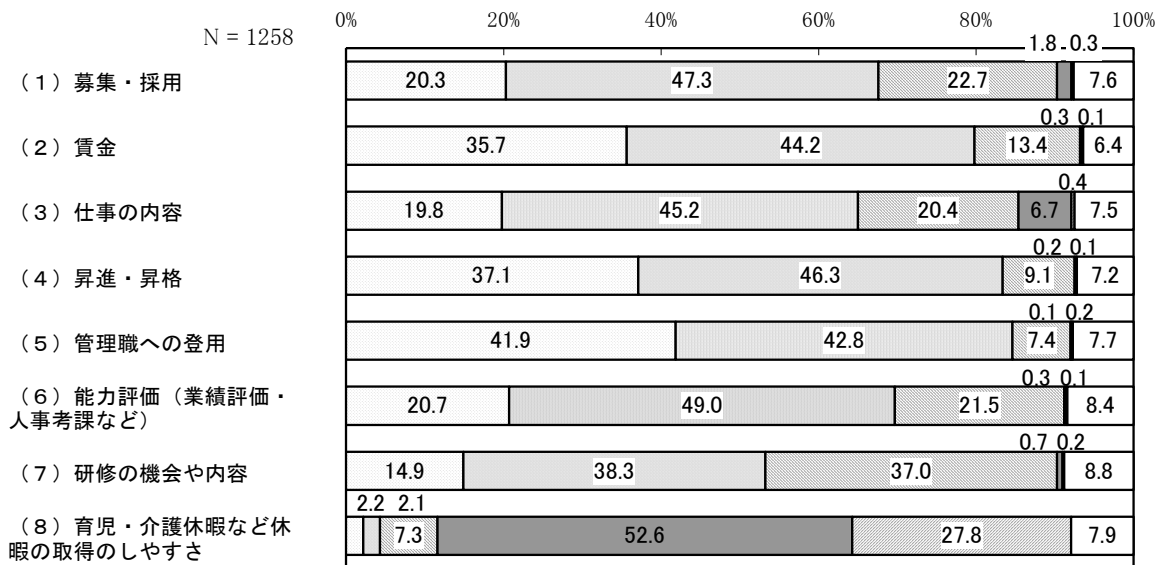
【男性】



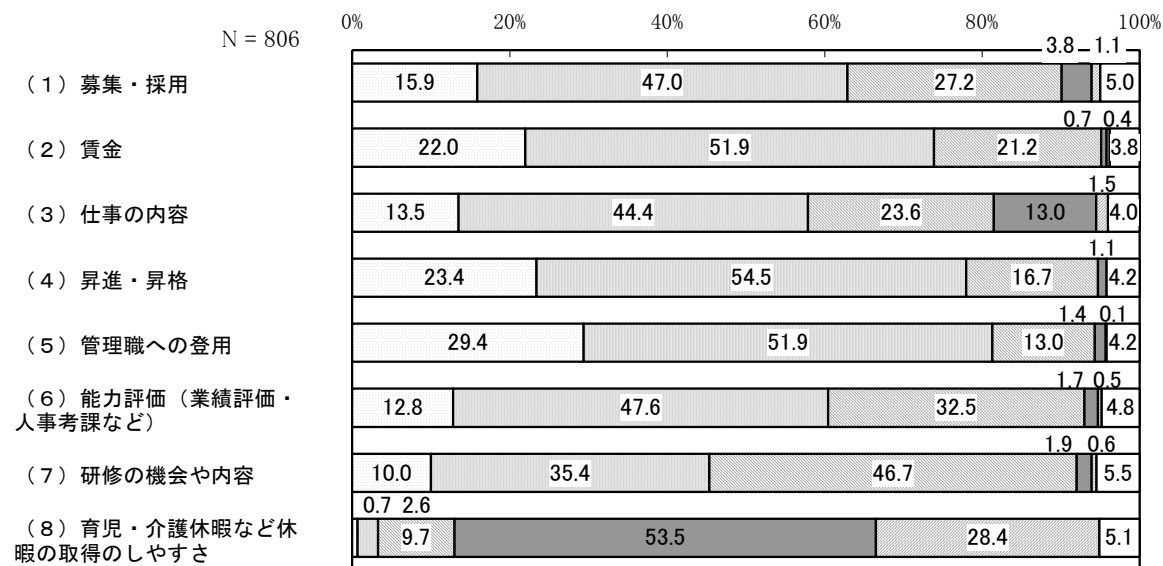
【前回調査（平成 22 年）】

【女性】

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 女性が優遇されている
- 無回答

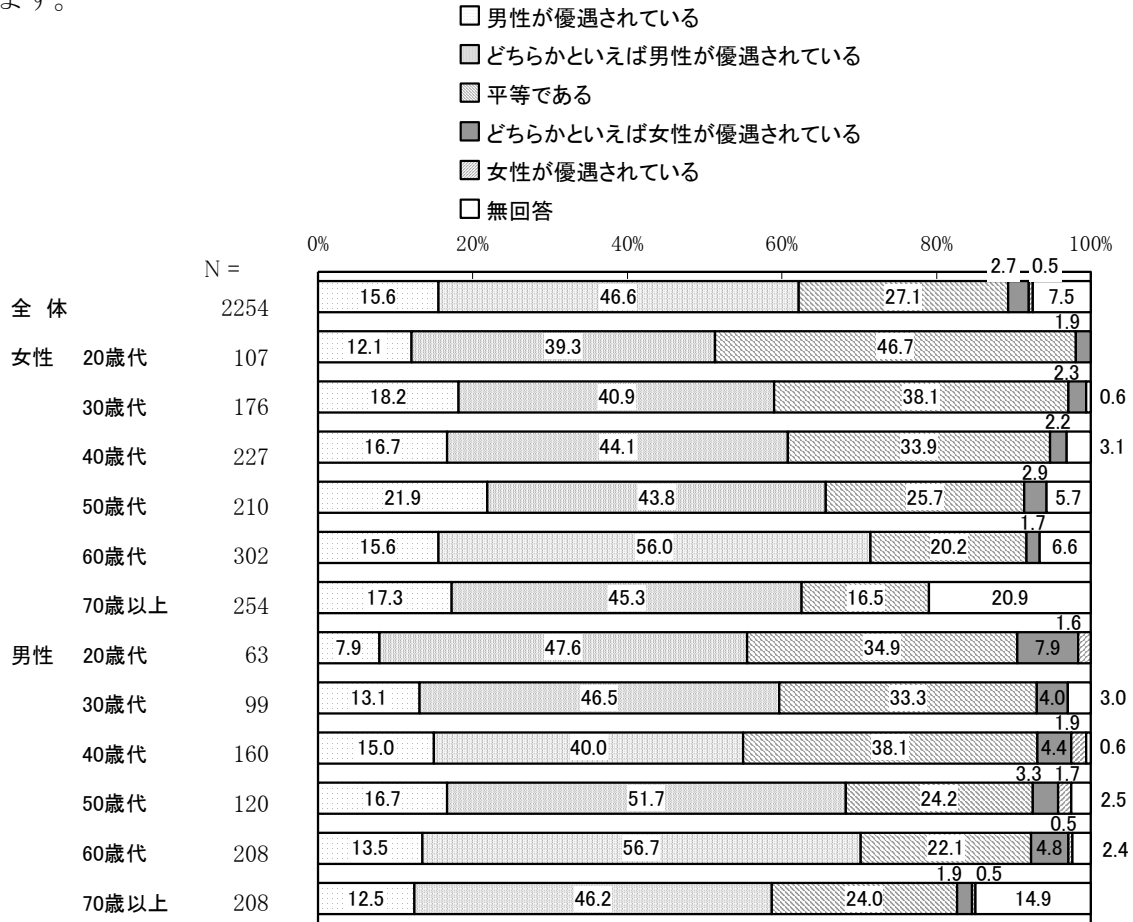


【男性】



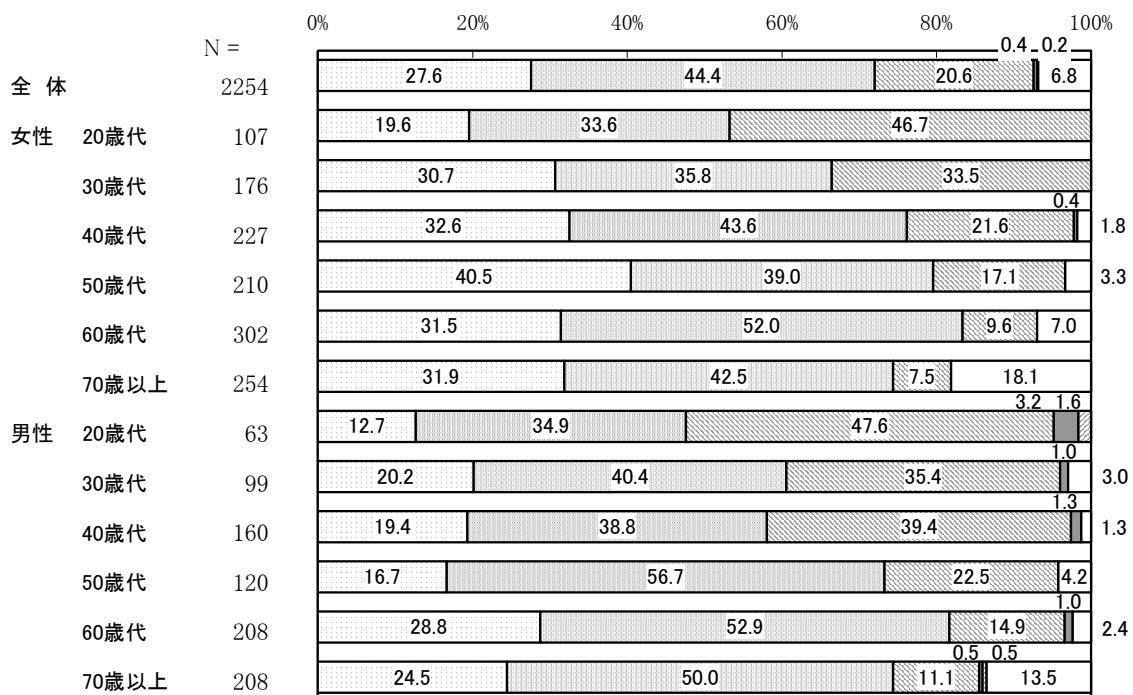
(1) 募集・採用

性・年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなっています。



(2) 賃金

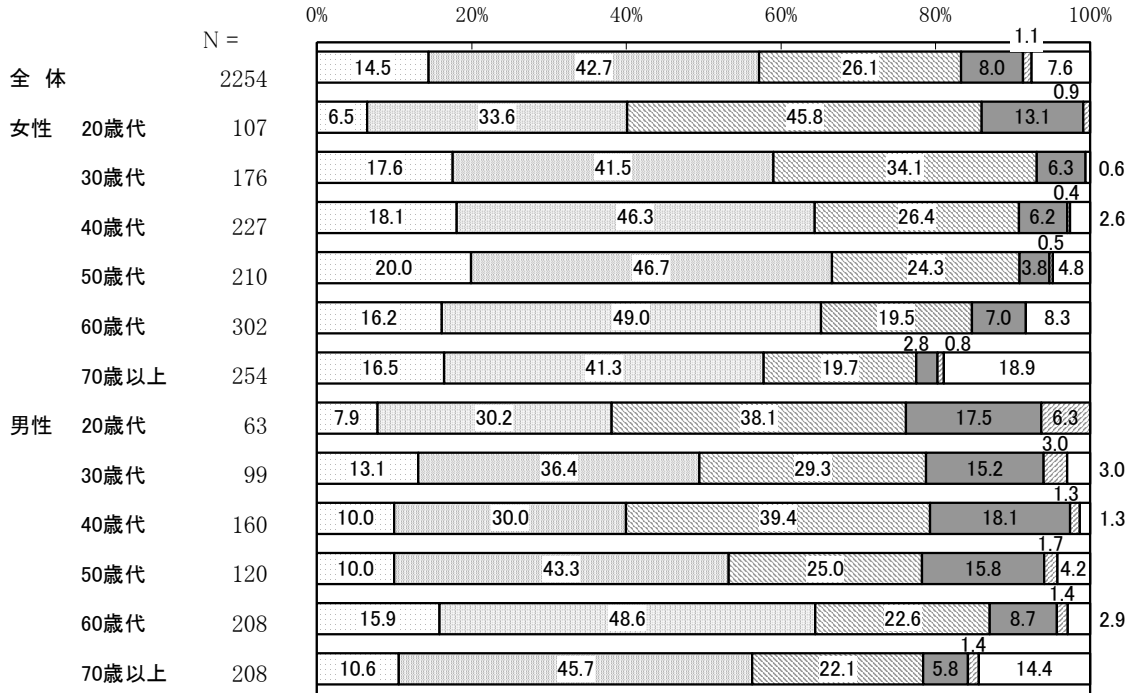
性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。



(3) 仕事の内容

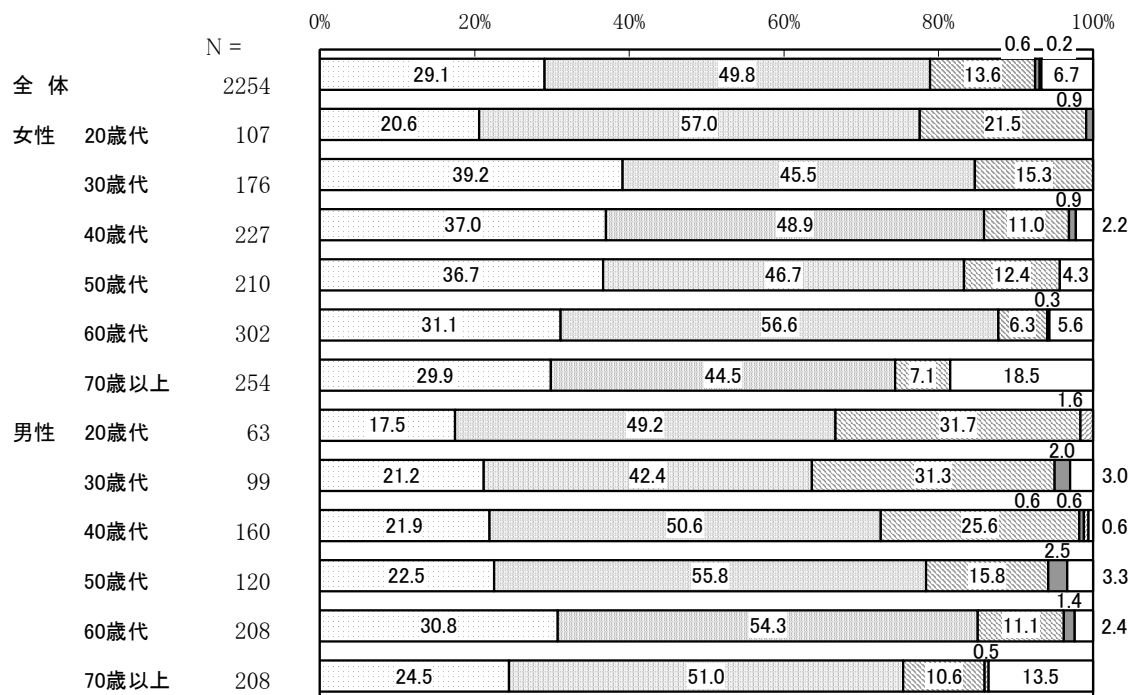
性・年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性が優遇されている
- ▧ 女性が優遇されている
- 無回答



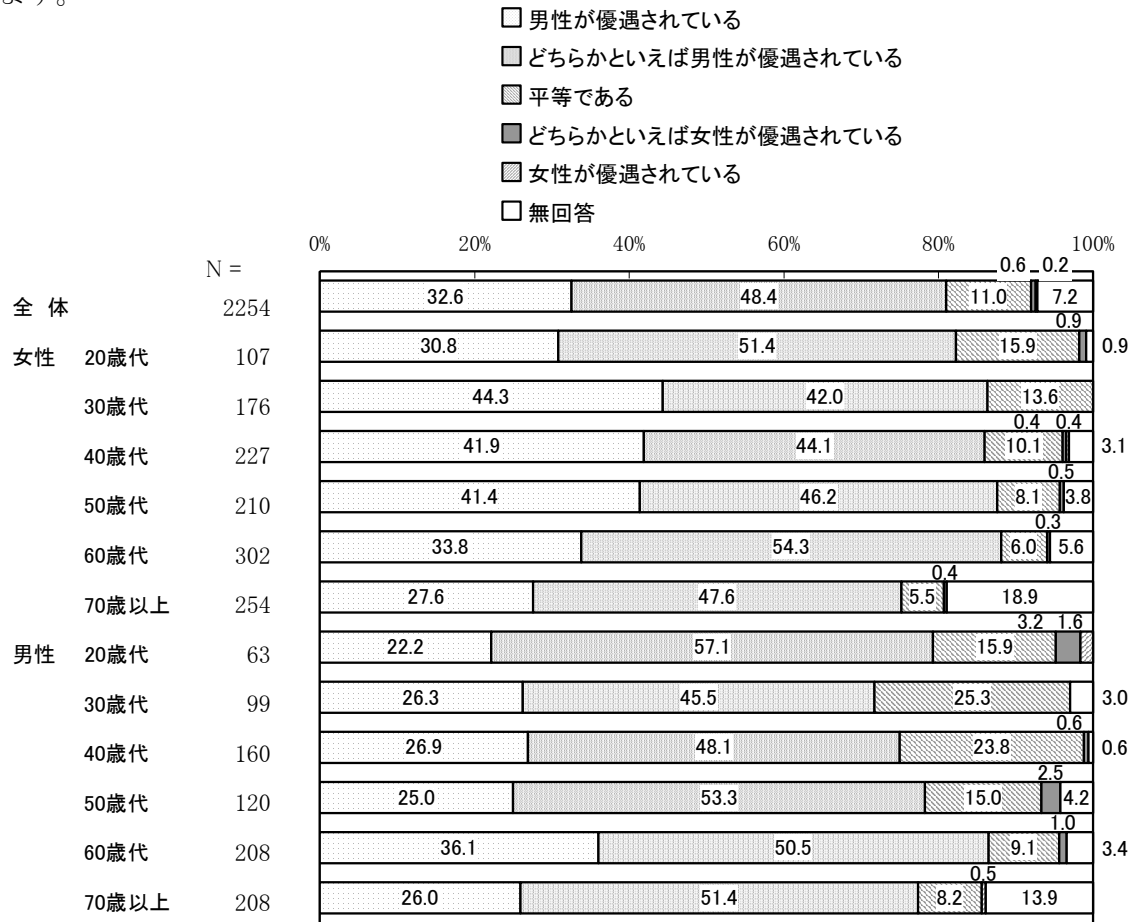
(4) 昇進・昇格

性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。



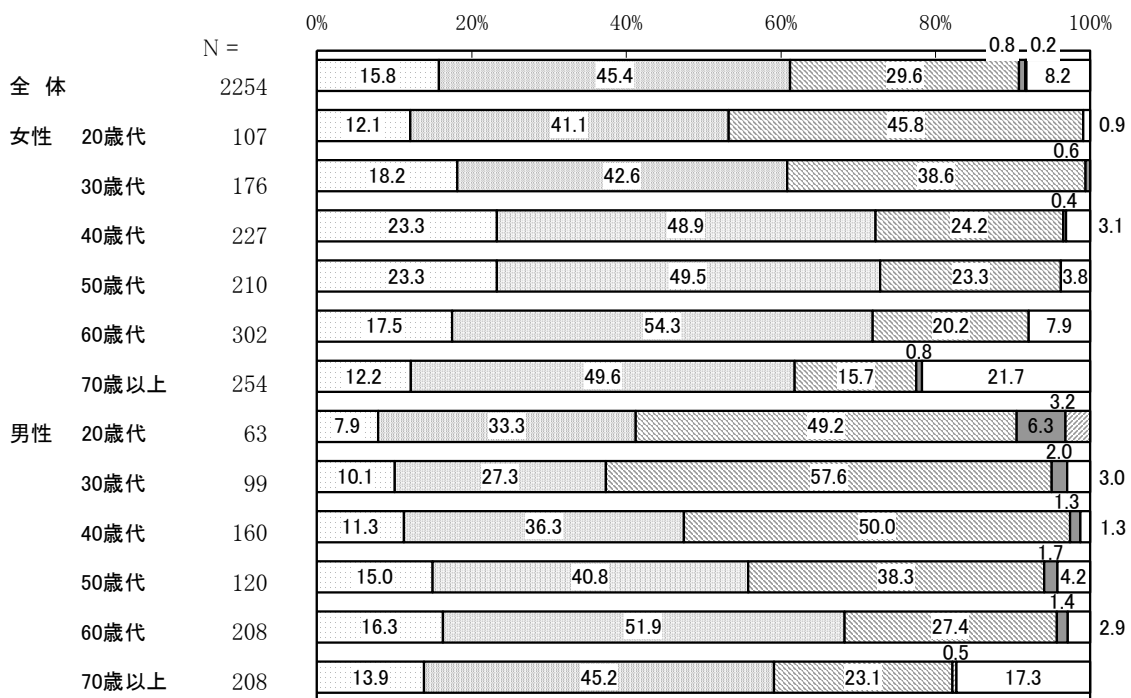
(5) 管理職への登用

性・年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなっています。



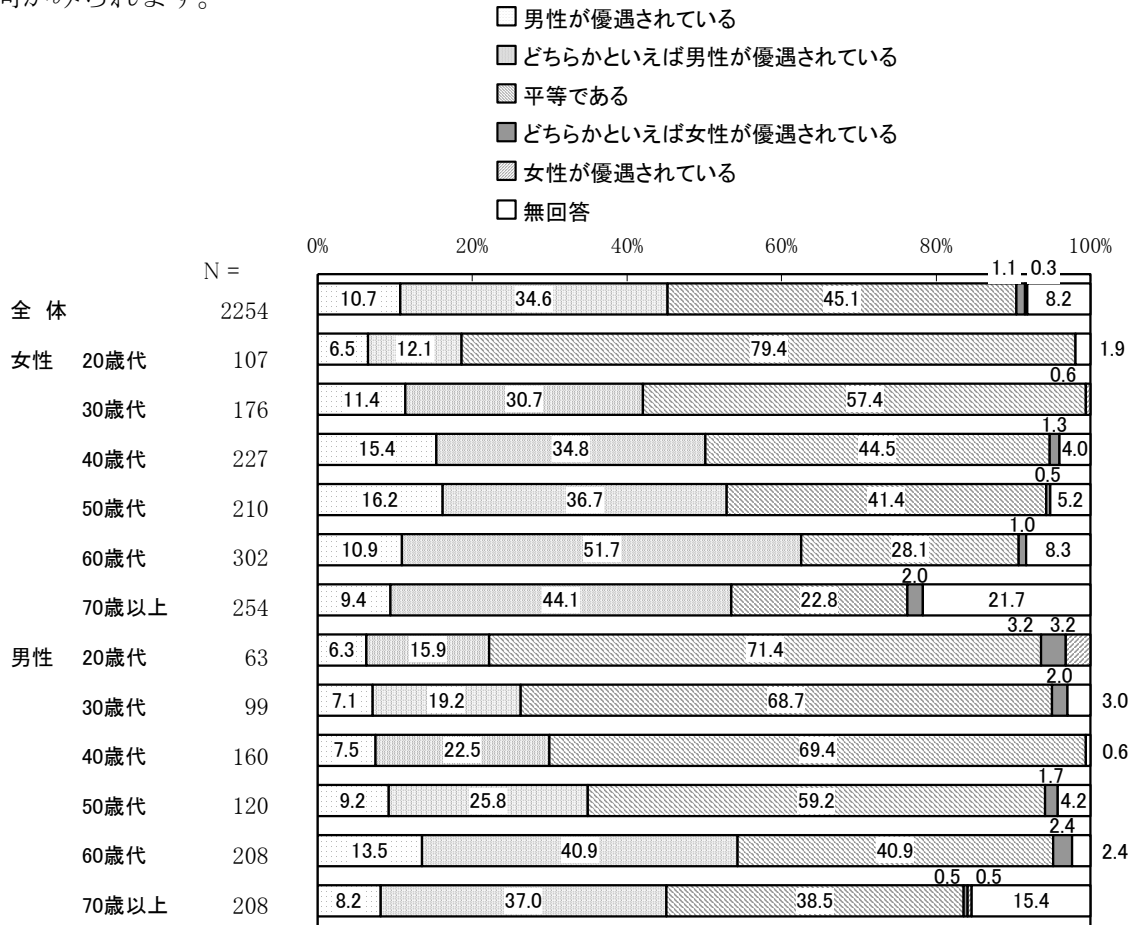
(6) 能力評価（業績評価・人事考課など）

性・年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなっています。



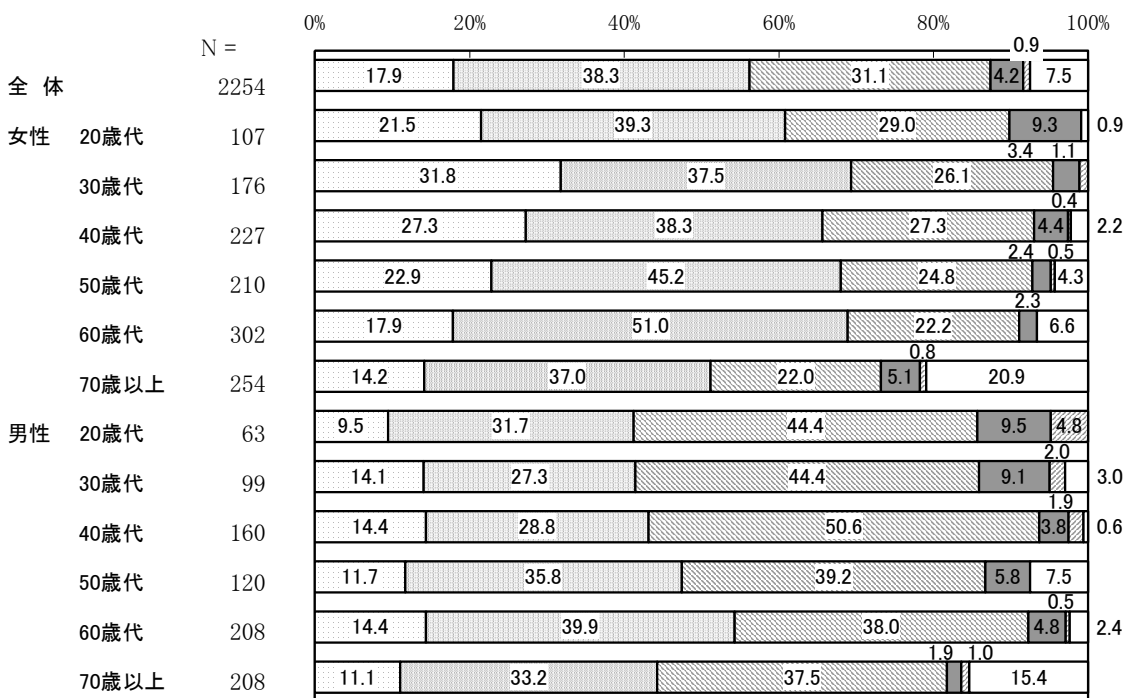
(7) 研修の機会や内容

性・年齢別で見ると、男女ともに年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。



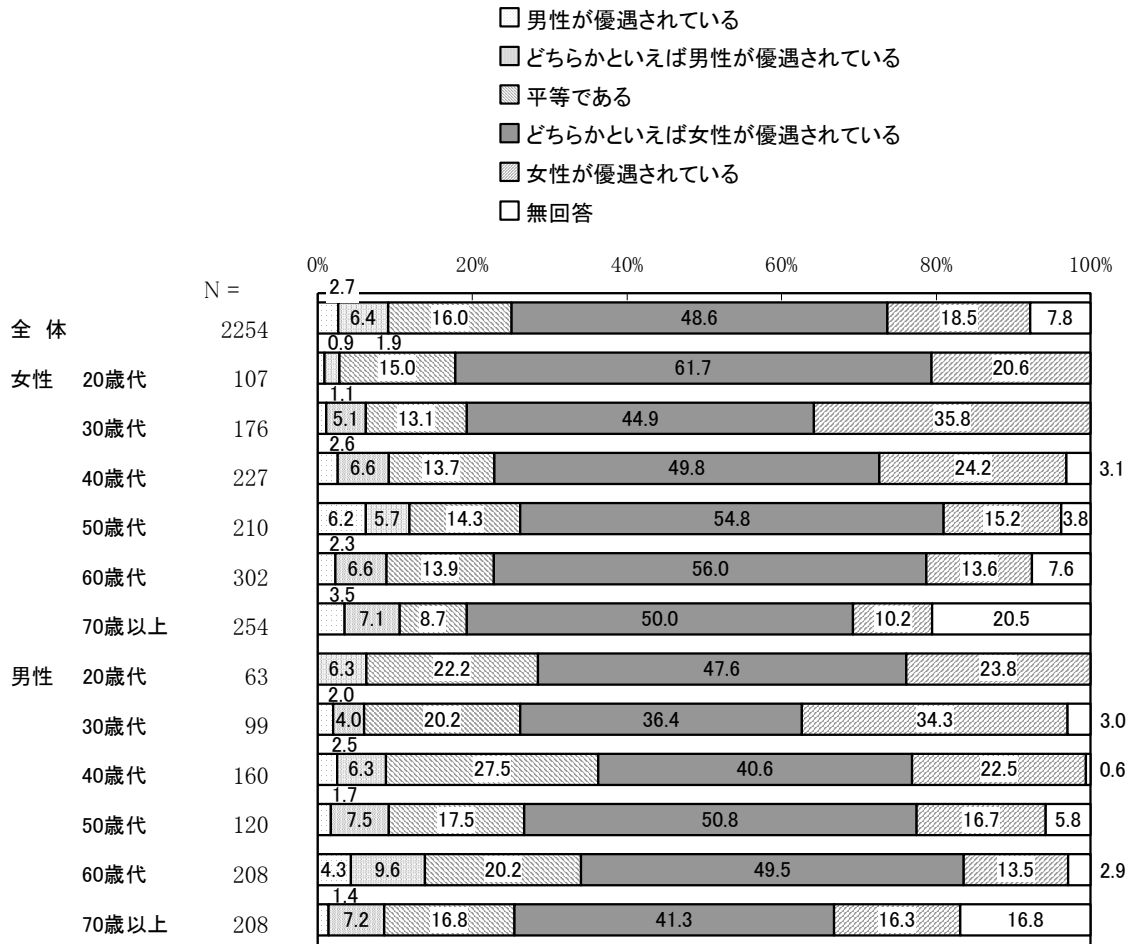
(8) 働き続けやすい雰囲気

性・年齢別で見ると、女性では年齢が低くなるにつれて「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。



(9) 育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ

性・年齢別で見ると、女性では、年齢が低くなるにつれて“女性が優遇されている”の割合が高くなっています。

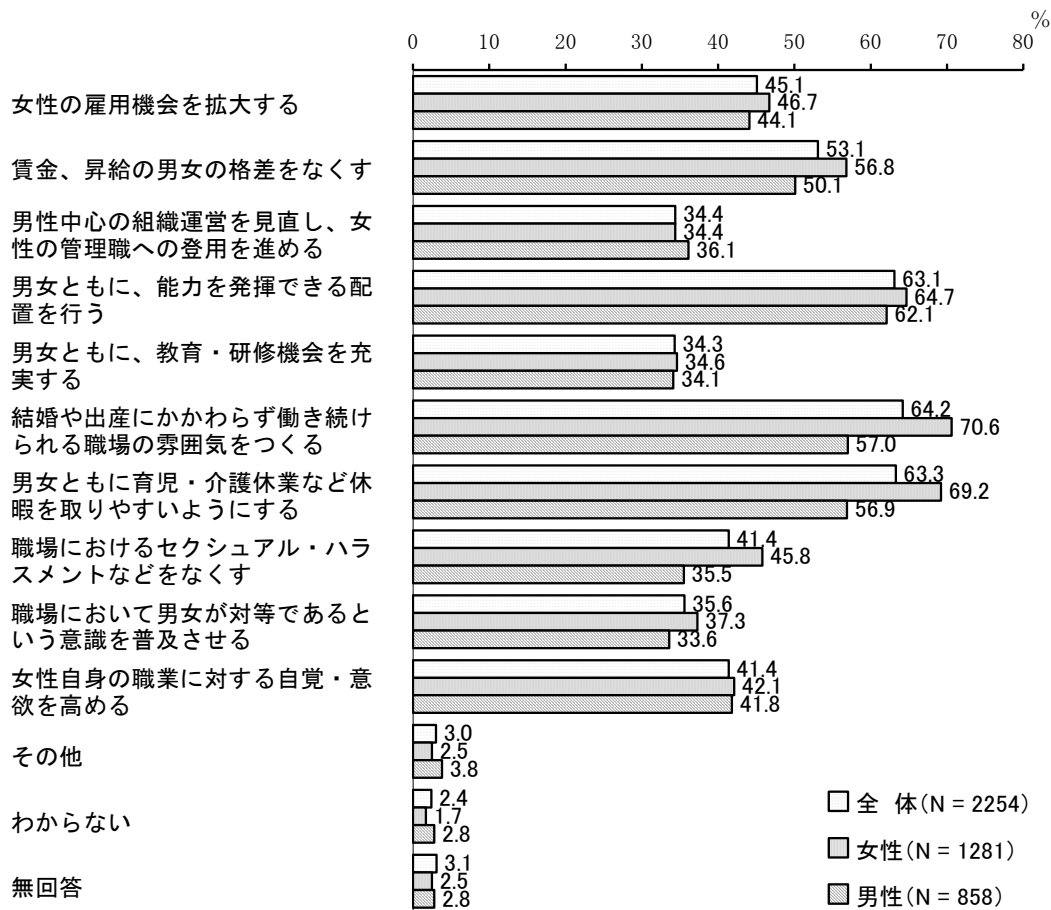


問 21 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

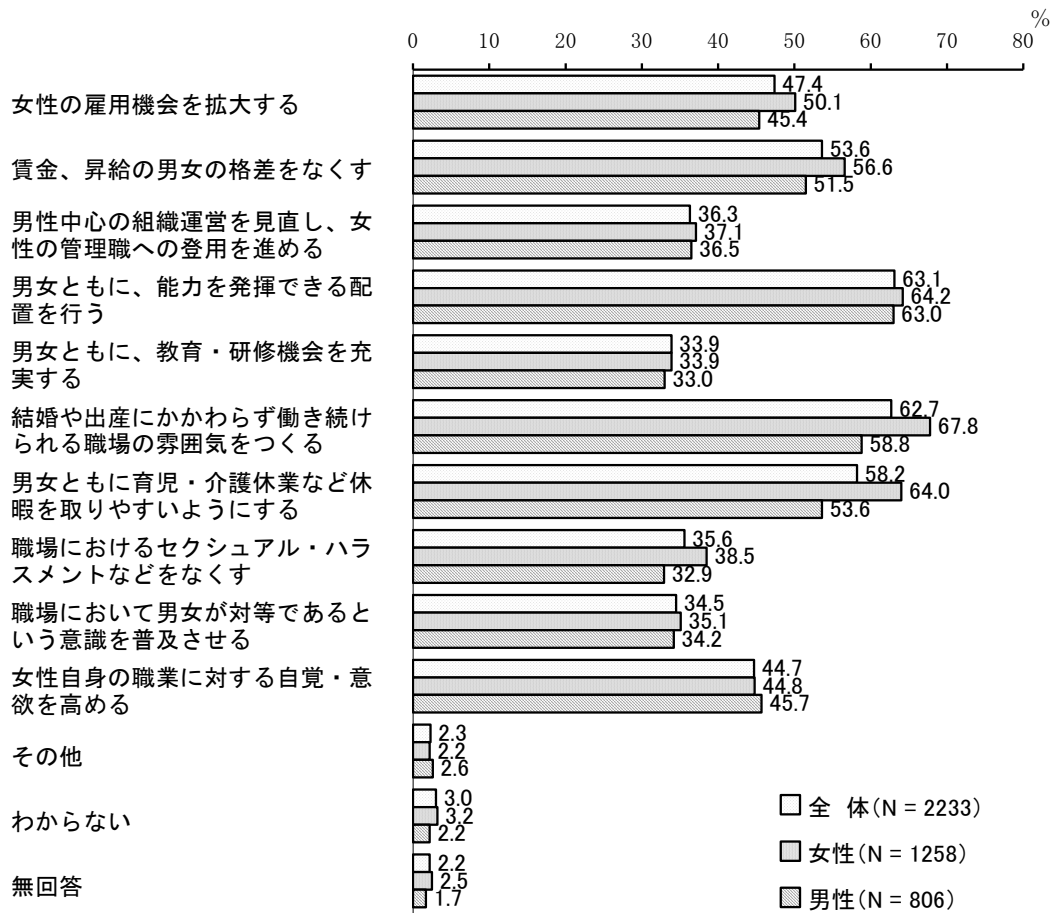
「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が 64.2%と最も高く、次いで「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」の割合が 63.3%、「男女ともに、能力を發揮できる配置を行う」の割合が 63.1%となっています。

性別でみると、女性で男性と比べて「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が高くなっています。

前回調査と比べると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす」で 5.8 ポイント、「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」で 5.1 ポイント高くなっています。女性では「職場におけるセクシュアル・ハラスメントなどをなくす」で 7.3 ポイント、「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」で 5.2 ポイント高くなっています。



【前回調査（平成 22 年）】

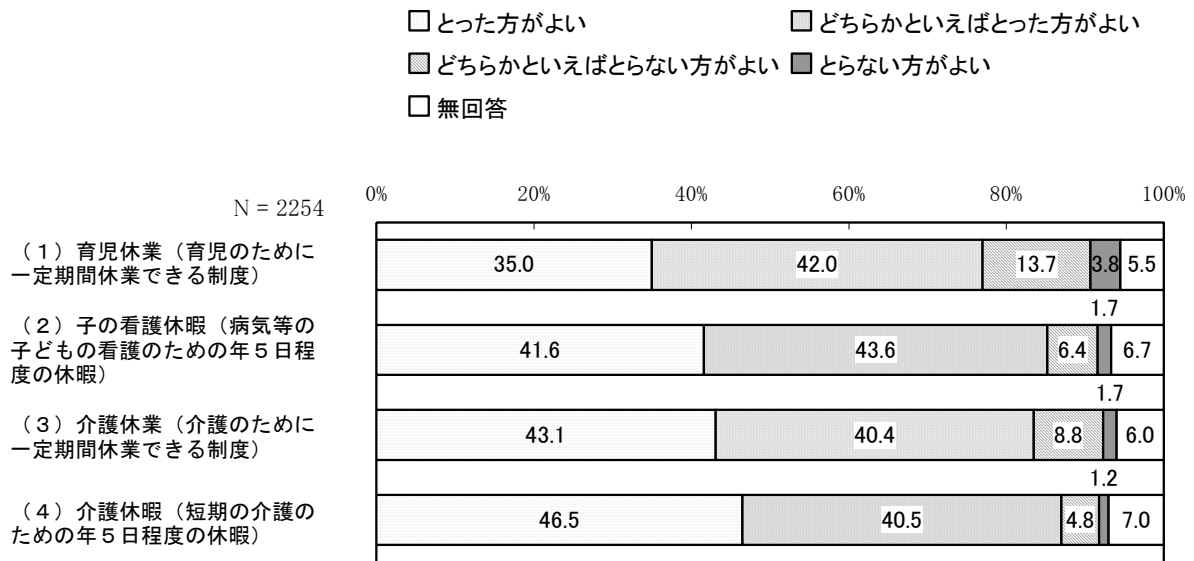


問 22 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。(それぞれ○は一つ)

「どちらかといえばとらない方がよい」と「とらない方がよい」をあわせた“とらない方がよい”の割合が『(1) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)』で 17.5%と最も高く、次いで『(3) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)』で 10.5%、『(2) 子の看護休暇 (病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)』で 8.1%となっています。

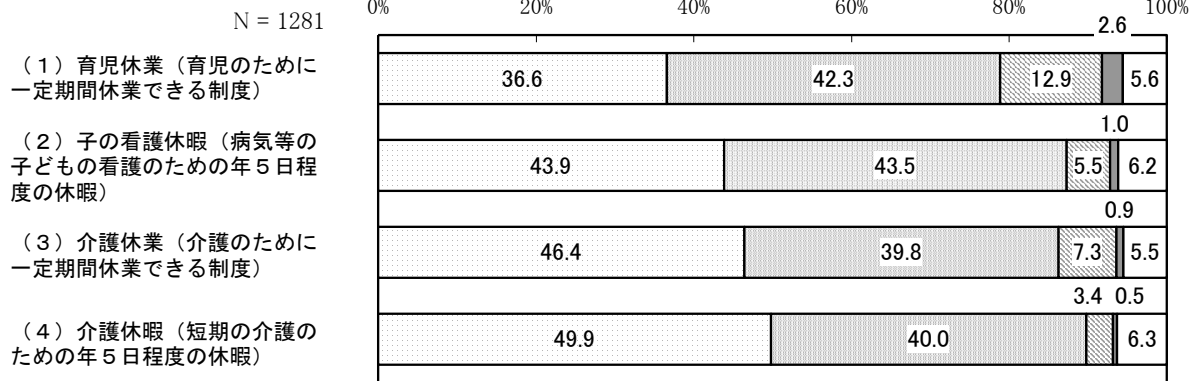
性別でみると、女性で「どちらかといえばとらない方がよい」と「とらない方がよい」をあわせた“とらない方がよい”の割合が『(1) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)』で 15.5%と最も高く、次いで『(3) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)』で 8.2%、『(2) 子の看護休暇 (病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)』で 6.5%となっています。男性で「どちらかといえばとらない方がよい」と「とらない方がよい」をあわせた“とらない方がよい”の割合が『(1) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)』で 20.9%と最も高く、次いで『(3) 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)』で 14.2%、『(2) 子の看護休暇 (病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)』で 10.9%となっています。

前回調査と比べると、女性で“とらない方がよい”の割合が『(1) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)』で 7.2 ポイント低くなっています。男性では“とらない方がよい”の割合が『(1) 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)』で 5.2 ポイント低くなっています。

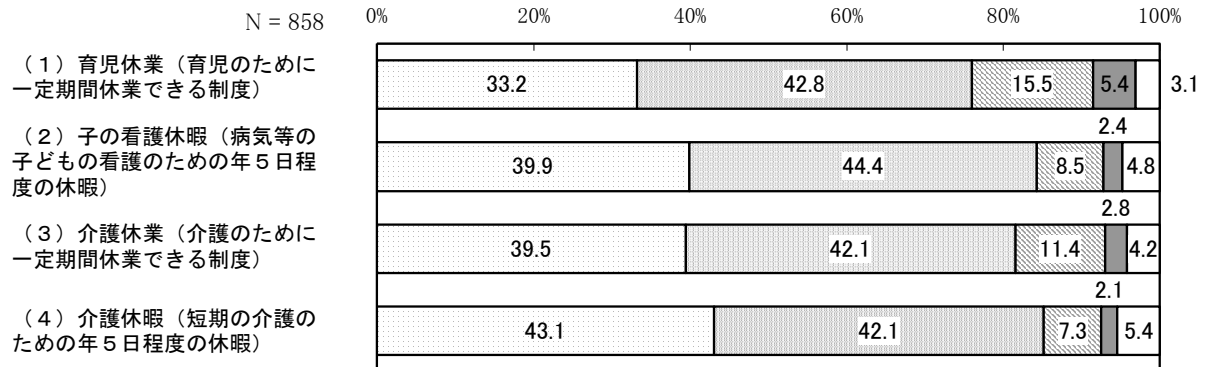


【女性】

- とった方がよい どちらかといえばとった方がよい
 どちらかといえばとらない方がよい とらない方がよい
 無回答

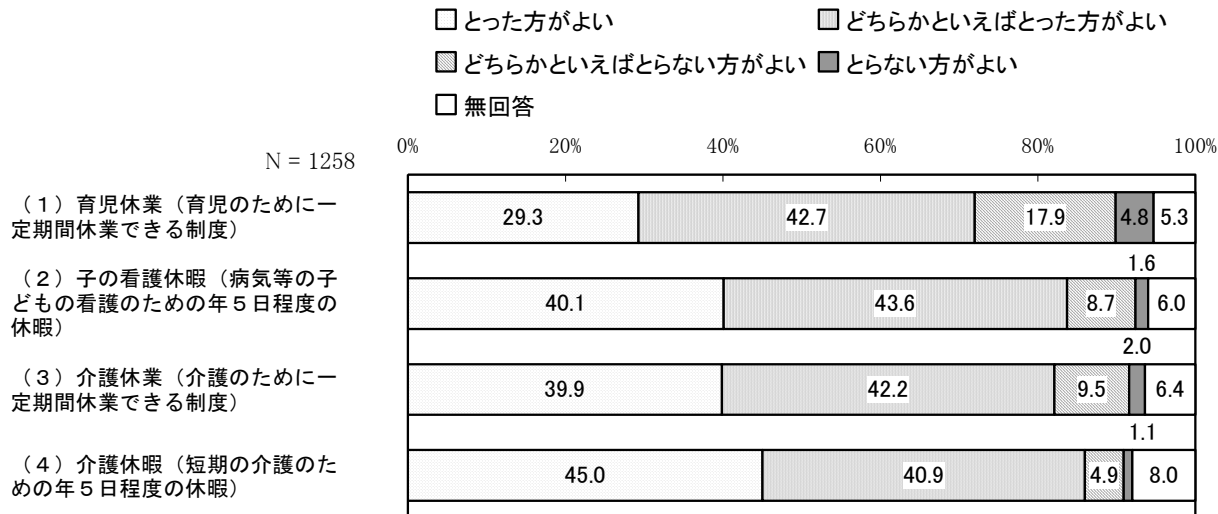


【男性】



【前回調査（平成 22 年）】

【女性】



【男性】



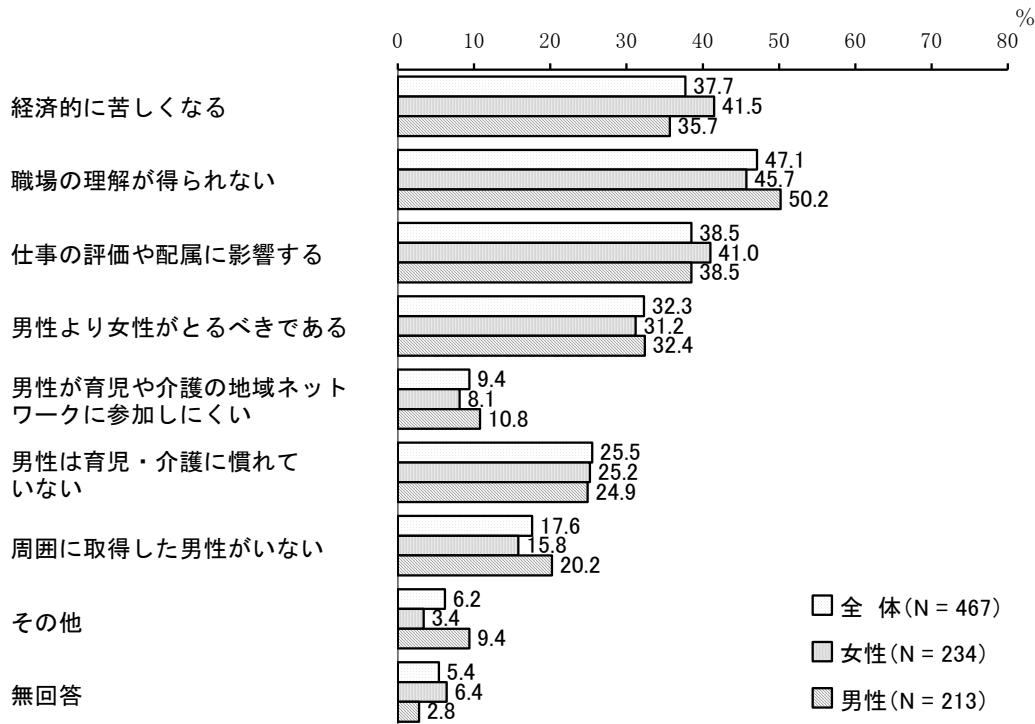
問 22 で一つでも 3・4 と回答した方にうかがいます。 ※それ以外の方は問 24 へ

問 23 そう考えるのは、なぜですか。

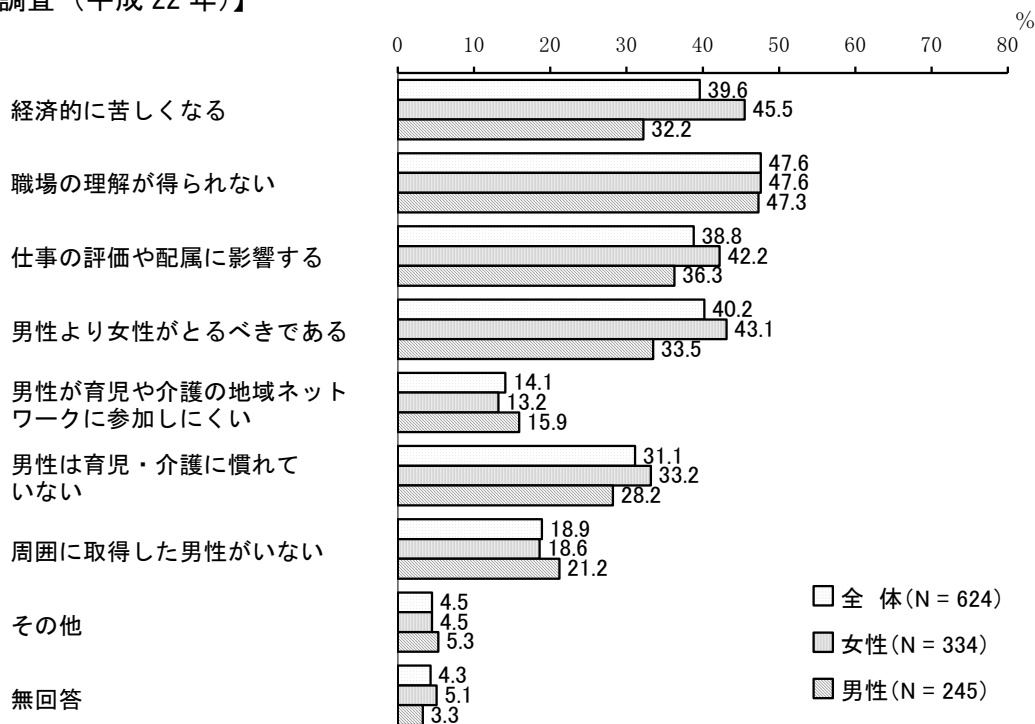
「職場の理解が得られない」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「仕事の評価や配属に影響する」の割合が 38.5%、「経済的に苦しくなる」の割合が 37.7%となっています。

性別でみると、女性で男性と比べて「経済的に苦しくなる」の割合が高くなっています。

前回調査と比べると、「男性より女性にとるべきである」で 7.9 ポイント、「男性は育児・介護に慣れていない」で 5.6 ポイント低くなっています。



【前回調査（平成 22 年）】



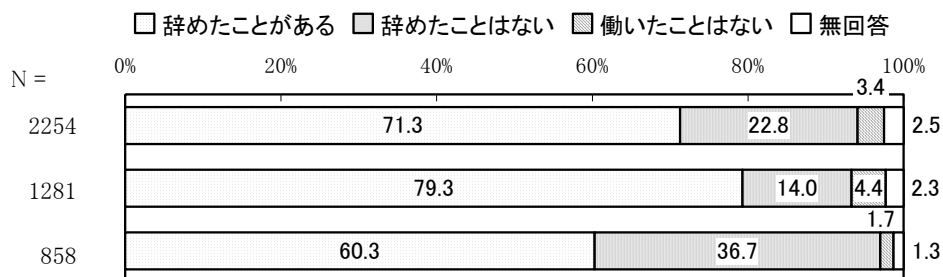
再び、全員の方にうかがいます。

問 24 あなたは、これまでに仕事を辞めたことがありますか。(〇は一つ)

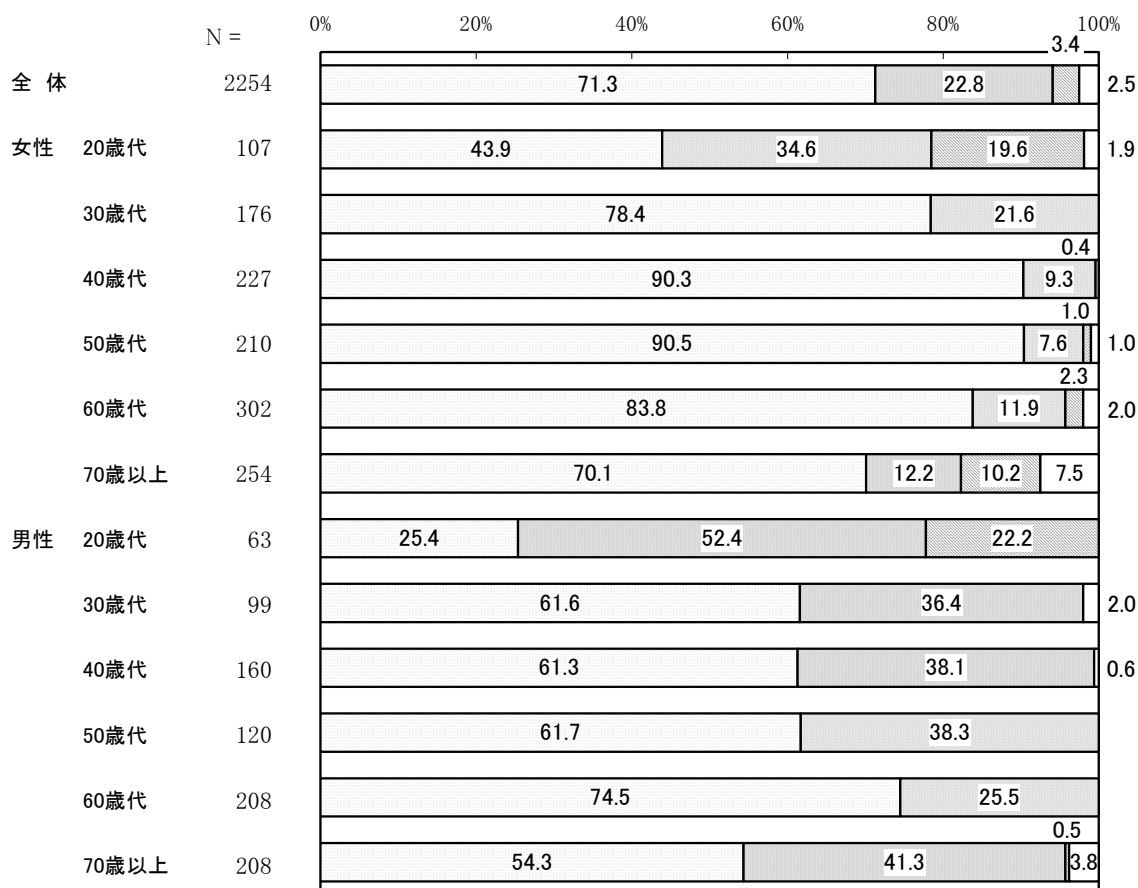
「辞めたことがある」の割合が 71.3%と最も高く、次いで「辞めたことはない」の割合が 22.8%となっています。

性別でみると、女性で「辞めたことがある」の割合が高くなっています。

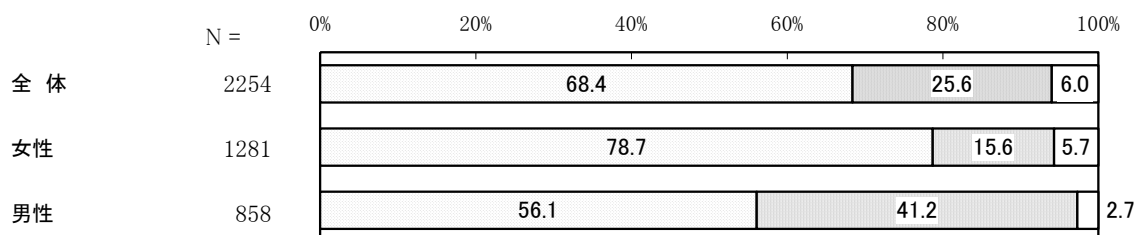
性・年齢別でみると、他に比べ、女性の 40 歳代、50 歳代で「辞めたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】



【前回調査 (平成 22 年)】

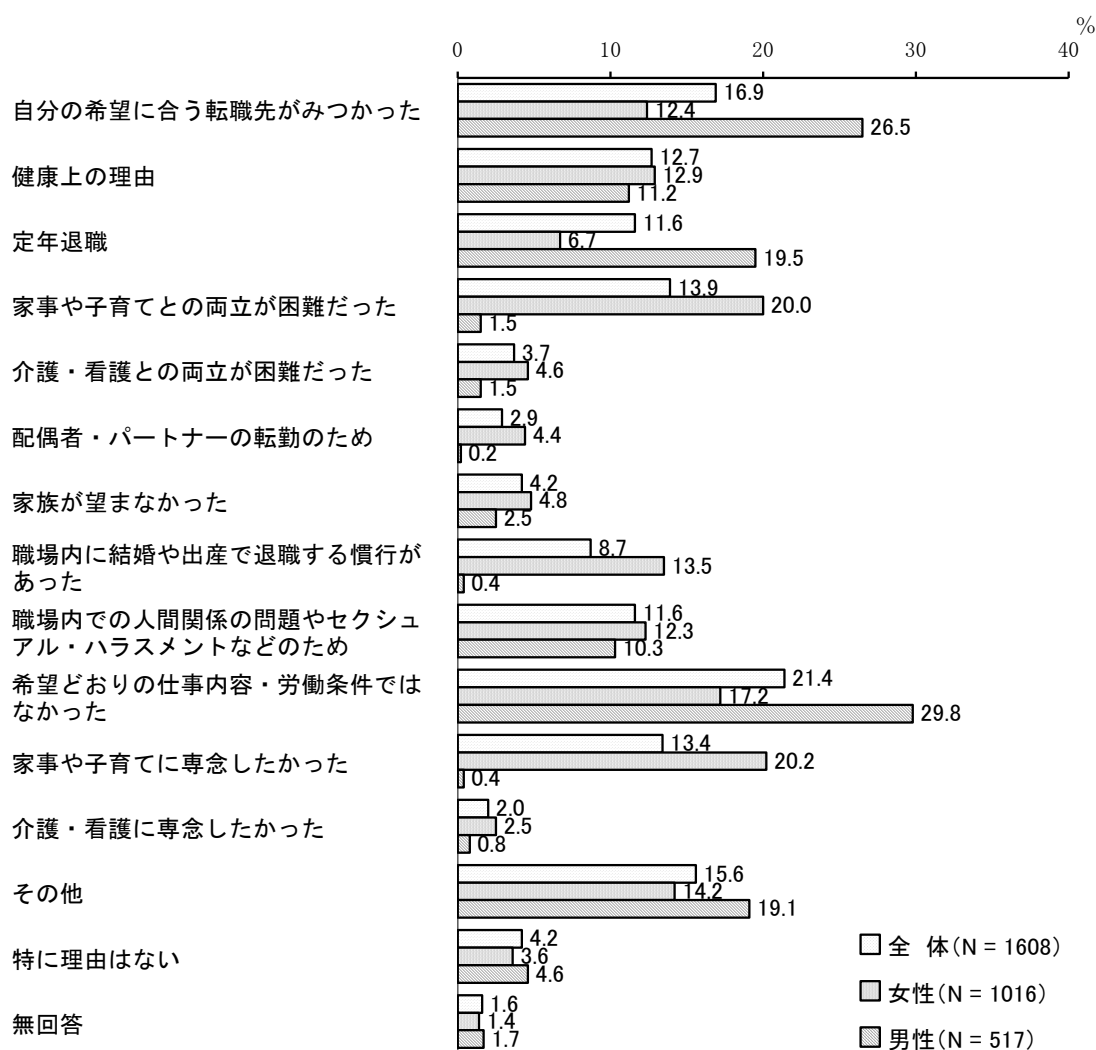


問 24 で、1 と回答した方にうかがいます。 ※2・3 と回答した方は問 26 へ

問 25 前職を辞めたのは、なぜですか。

「希望どおりの仕事内容・労働条件ではなかった」の割合が 21.4% と最も高く、次いで「自分の希望に合う転職先が見つかった」の割合が 16.9%、「健康上の理由」の割合が 12.7% となっています。

性別でみると、女性で男性に比べて「家事と子育てとの両立が困難だった」「家事や子育てに専念したかった」の割合が高くなっています。男性で女性と比べて「自分の希望に合う転職先が見つかった」「希望どおりの仕事内容・労働条件ではなかった」の割合が高くなっています。



【前回調査（平成 22 年）】

